

つる まつ 鶴松古墳群・機ヶ谷古墳群
はた が や

ヤマハ発動機株式会社袋井工場
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

1982.3

袋井市教育委員会

鶴松古墳群・機ヶ谷古墳群

1982. 3

袋井市教育委員会

例 言

1. 本書は、昭和56年2月23日～5月30日に実施した静岡県袋井市山科3080番地他に所在する鶴松古墳群・機ヶ谷古墳群の発掘調査概報である。
2. 発掘調査は、ヤマハ発動機株式会社の委託をうけ、袋井市教育委員会が調査主体となって実施した。
3. 発掘調査は、永井義博（袋井市教育委員会）が調査を担当した。
4. 現地調査は、山本宏司・松井一明（駒沢大学4年生）両君にお願いし、永井がこれを補佐した。調査及び遺物整理には、吉岡伸夫・西井幸雄（袋井市教育委員会）、鈴木敏則（奈良教育大学学生）、前田庄一・平賀 太（奈良大学学生）、早川保子、高野由美子他多数の諸君の協力を得た。
5. 概報の執筆は分担して行い、文末に記名してその責任を明らかにした。

目 次

I はじめに	(1)
II 各地区の概要	(2)
a) 水田地区	(2)
b) 山林地区	(2)
○ A地区	(2)
○ B地区	(2)
○ C地区	(6)
○ D地区	(10)
○ E地区	(11)
○ F地区	(12)
III まとめにかえて	(12)

挿 図 目 次

fig 1	鶴松古墳群・機ヶ谷古墳群位置図	(1)
fig 2	調査区全体図	(2)
fig 3	A地区地形測量図(鶴松2号墳)	(5)
fig 4	B地区地形測量図(鶴松3号墳)	(5)
fig 5	C地区鶴松4号墳主体部実測図	(6)
fig 6	C地区鶴松4号墳墳丘測量図	(6)
fig 7	C地区土墳墓実測図	(7)
fig 8	C地区住居址内焼土址実測図	(8)
fig 9	C地区住居址実測図	(9)
fig 10	D地区地形測量図(機ヶ谷3号墳)	(9)
fig 11	E地区土墳墓実測図	(10)
fig 12	E地区地形測量図	(10)
fig 13	F地区地形測量図(鶴松1号墳)	(11)

図 版 目 次

PL 1	調査区近景<西より>
PL 2	水田地区の調査<東より>
PL 3	水田地区トレンチ完掘状況
PL 4	水田地区トレンチ土層断面
PL 5	A地区鶴松2号墳墳頂部
PL 6	A地区鶴松2号墳全景
PL 7	B地区丘陵上トレンチ完掘状況
PL 8	B地区鶴松3号墳
PL 9	C地区鶴松4号墳<正面より>
PL 10	C地区鶴松4号墳<主体部>
PL 11	C地区鶴松4号墳<裏より>
PL 12	C地区土墳墓
PL 13	土墳墓
PL 14	住居址
PL 15	D地区トレンチ
PL 16	D地区トレンチ
PL 17	D地区トレンチ
PL 18	E地区土墳墓
PL 19	E地区土墳墓
PL 20	F地区鶴松1号墳

I はじめに

袋井市山科の丘陵上には前方後円墳，円墳が散在し，鶴松古墳群・機ケ谷古墳群などと呼ばれている。この付近は東名高速道路袋井インターチェンジの建設と前後して開発が始まり，各種工場や運輸・通信施設が増加してきている。

ヤマハ発動機袋井工場もこの交通の便の良い袋井市山科地内に昭和56年6月に建設予定があげられた。しかし，この用地内には周知の文化財として丘陵上に鶴松古墳群・機ケ谷古墳群が存在している。また用地西側の水田には鶴田遺跡，鶴松遺跡などの弥生中期～後期にかけての集落址がひろがっている。用地内の埋蔵文化財の調査依頼を受けた袋井市教育委員会は，静岡県教育委員会文化課，ヤマハ発動機株式会社と十分な協議を重ねた結果，埋蔵文化財の発掘調査を実施した。調査は昭和56年2月23日より5月30日まで実施され，周知の文化財・鶴松1号墳・2号墳・3号墳，機ケ谷3号墳については地形測量とトレンチ調査を，新たに発見された遺構群については拡張して平面調査をおこなった。また用地内に存在するその他の古墳は緑地として保存していただけることになった。

調査期間中，県教委文化課からは佐藤達雄指導主事にたびたびのご指導をいただいた。また大谷純仁先生（袋井市文化財保護審議委員）には調査補助員の手配から現地古墳群の様相についてまでもご教示いただき，多大なご苦勞をおかけした。ここに記して深謝の意を表します。

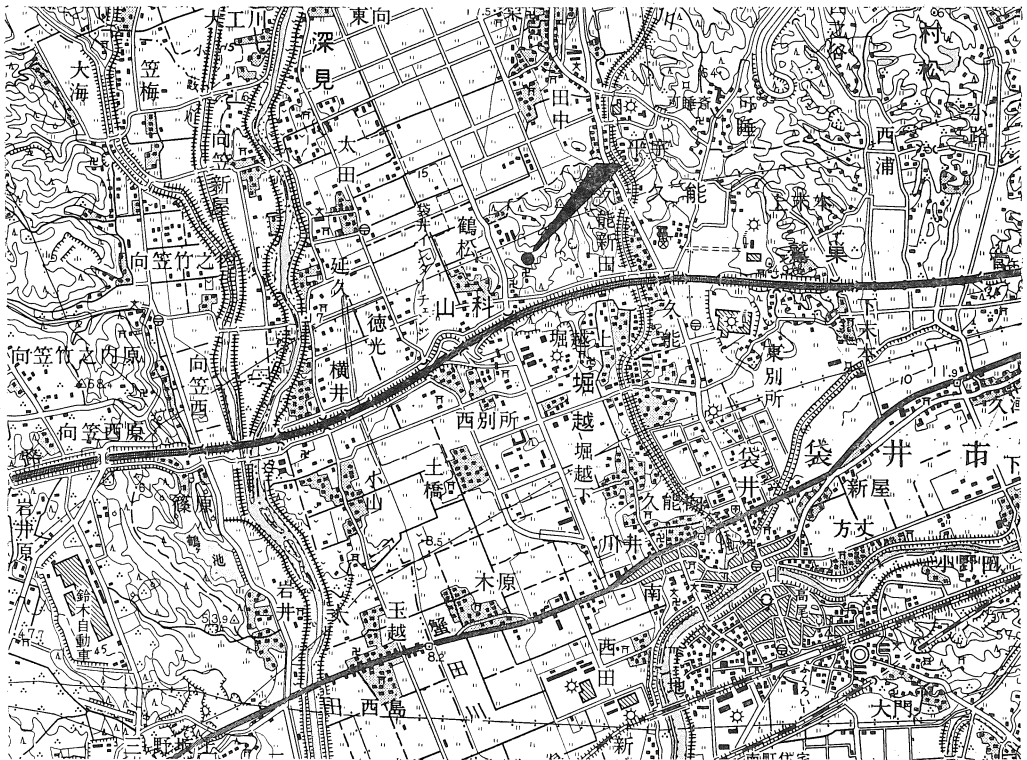


fig 1 鶴松古墳群・機ケ谷古墳群位置図 〈1:25,000〉

Ⅱ 各地区の概要

a) 水田地区 (fig 2 PL1~4)

調査地の大部分は水田であるが、現在は使用されておらずヨシ等の繁茂する沼沢地となっている。調査トレンチは15m間隔に33個設定し、必要に応じて4×4mにトレンチを拡張し遺構検出につとめた。この附近はかつて一面に沼となっており、それを埋め立てて水田にしたため非常に湧水が多くたびたび調査の障害となった。基本的な土層堆積は、表土（耕作土）下は粘土層とピート層が互層になっており、谷部の中心では深さ2m近くまで掘ってもこのくりかえしは続いている。Q-6 トレンチではこのピート層下にわずかに黒色土が検出された。これについて大谷純仁先生より鶴松遺跡の黒色土（遺物包含層）に類似しているとのこと指摘をうけ精査したが、この土から遺物は発見されなかった。水田地区の出土遺物としては、P-6 トレンチより土師器片1点、P-7 トレンチより陶器片1点、Q-8 トレンチより木製品（杭か？）1点が確認されている。それぞれ細片であるため時期の決定はしかねる。

（永井義博）

b) 山林地区

山林地区は樹木の伐採後に調査する。調査が丘陵ごとに複雑に入りこんでいるためA地区からF地区まで6地区に分けアルファベット順に調査した。

A地区 (fig 3 PL5~6)

本地区では、周知の文化財として鶴松2号墳が知られている。鶴松2号墳は独立丘陵から西にのびる尾根上に位置し、墳丘西側に主要地方道浜北一袋井線が通る。現状は墳頂部に祠が祭られ周囲は山林である。鶴松2号墳とその北の墳丘状の地ぶくれに調査トレンチを入れた結果周溝等の人為的な施設は確認されていない。墳頂部は深さ30cm程削平され、基礎を入れた祠がたっている。祠を移動させ墳頂部も調査したが、すでに地山面に達して主体部等は確認されていない。袋井地域の墳墓には、墳丘は地山削り出しで表土下20cm以内に主体部を持つという例もあるとのことであるが、墳頂部の状況等から、すでに破壊された墳墓というのが結論であろう。（永井義博）

B地区 (fig 4 PL7~8)

鶴松院裏に鶴松3号墳が知られている。B地区の最高レベルを計る墳墓状の地形に調査トレンチを入れた結果、遺構・遺物は発見されていない。しかし立地及び現況の地形より、地山削

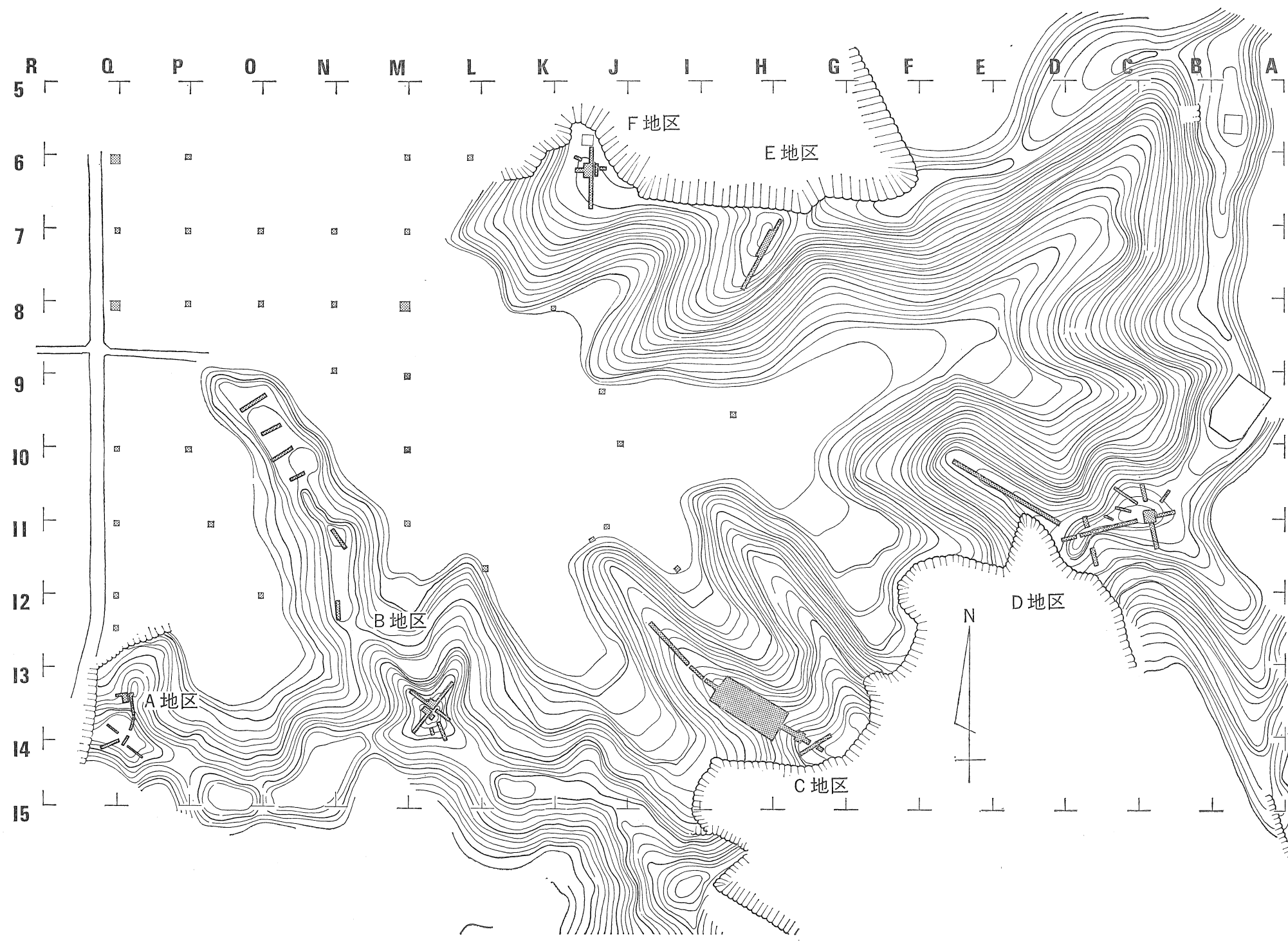


fig 2 調査区全体図 <1:2,000>

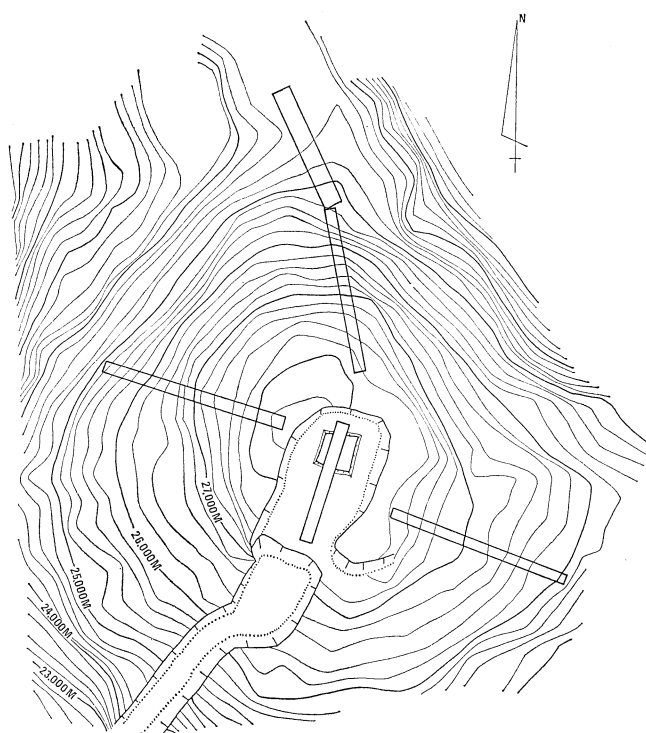


fig 3 A地区地形測量図（鶴松 2 号墳）〈1 : 300〉

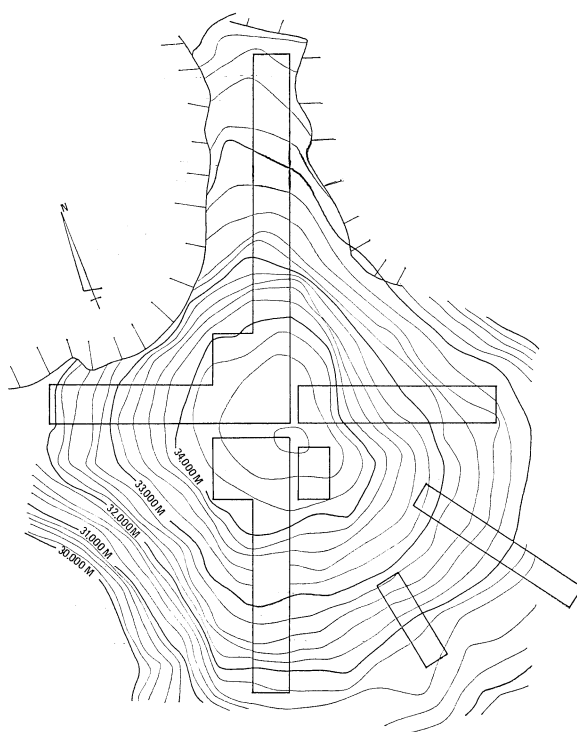


fig 4 B地区地形測量図（鶴松 3 号墳）〈1 : 300〉

出しの墳丘をもつ鶴松 3 号墳は、風雨等で主体部を流失してしまったと考えられる。

舌状にのびてくる丘陵先端の平坦地では住居址等の遺構を考慮してトレンチを設定し調査した。しかしこの平坦地は茶畑として使用するとき上面をかなり削平しているため、表土下にすぐ地山があらわれてしまい遺構・遺物は発見できなかった。（山本宏司）

C 地区 （fig 5～9 PL9～14）

独立丘陵に舌状に広がる尾根の一つが C 地区である。樹木を伐採後に数ヶ所墳丘状の盛り上がりが見られたため地形にあわせて調査トレンチを設定した。

・鶴松 4 号墳

北西に延びる丘陵中程に立地する。丘陵鞍部に直交するように幅 1 m の溝で切断してある。丘陵の地形により若干歪んではいるが長軸 7.5 m、短軸 4.5 m、両横の削り出しよりの高さ 1 m を計る。主体部は墳頂中心部をやや東にはずれ、長軸 1.5 m、短軸 1 m、深さ 35 cm の土壌が掘られている。主体部溝内とも出土遺物は

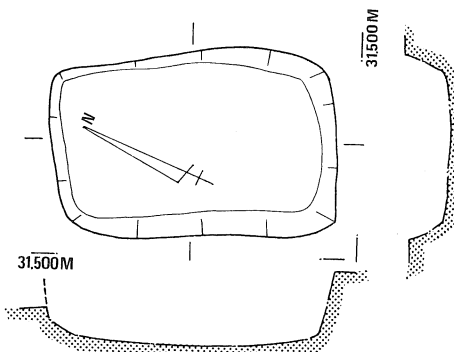


fig 5 C地区鶴松 4 号墳主体部実測図〈1：40〉

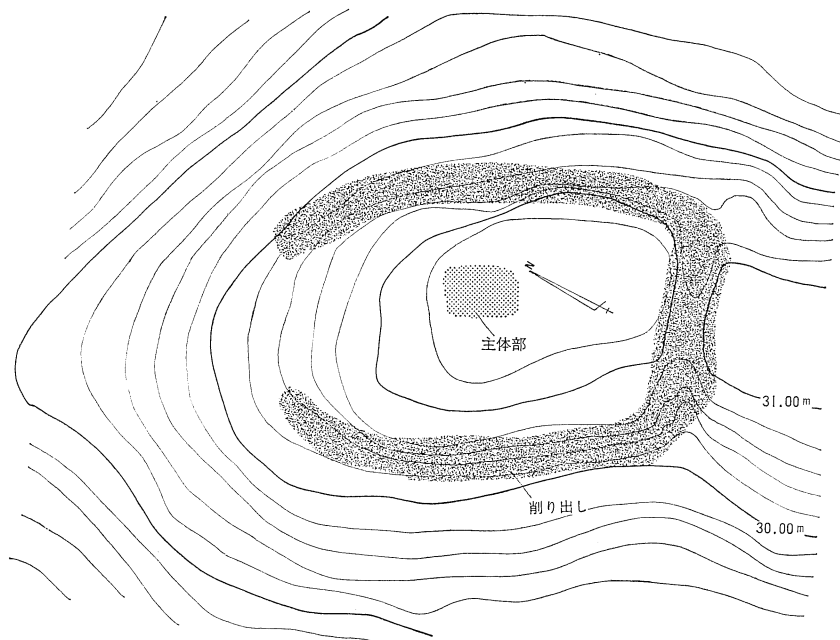


fig 6 C地区鶴松 4 号墳墳丘測量図 〈1：120〉

なく直葬しているものと考えられる。丘陵の入りくんだ部分に位置しているが、墳頂部からは太田川流域や磐田原台地が一望でき、眼下の低地には鶴田遺跡・鶴松遺跡が広がっている。

。土壙墓

鶴松4号墳の南25mの丘陵鞍部のやや平坦地で検出された。土壙墓は長軸2m、短軸1.3m深さ50cmで床直上に6個の礫を配する。礫の配置及びレベルから、4個の礫を基本に、2個の礫で補助して板状のものを支えたと考えられる。土壙墓東側コーナーより、本土壙に附属すると考えられる排水溝状の遺構が検出されている。長さ1.5m、幅30cm、深さ10cmで内部に握り拳大の礫がつめこまれている。土器等の出土品、周囲を区画する施設は検出されていない。

。住居址

C地区の丘陵の最上部に位置する。トレンチ調査中に断面で焼土と炭化物が確認され4.4m×3.2mで周囲を拡張した。その結果、直径20cmの焼土と炭化物の炉址状の遺構と、その斜面上部に焼土遺構を囲む溝が、幅15cm、深さ10cmで回っている。この溝の覆土には、かなり多量に炭化物がつまっていた。柱穴等のピットは確認されていない。炉址状の遺構、溝状の遺構の形態から住居址か^{のろし}狼煙場等の遺構と考えられる。出土遺物は検出されていないが、この遺構の南側より弥生式土器の細片（時期不明）が発見されている。

この丘陵上のセンターは鶴松4号墳、土壙墓、住居址に類似した遺構が並ぶが、出土遺物がなく時期が決定されないため、その性格については今後の資料の増加を待ちたい。（永井義博）

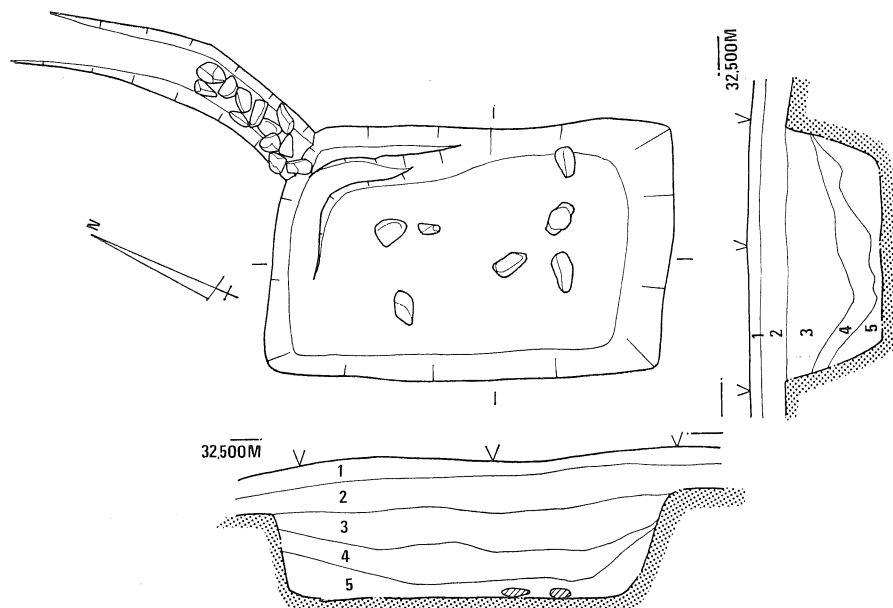


fig 7 C地区土壙墓実測図 <1:40>

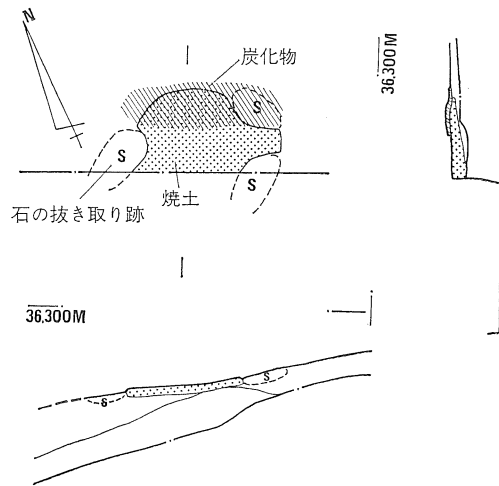


fig 8 C地区住居址内焼土址実測図 〈1:40〉

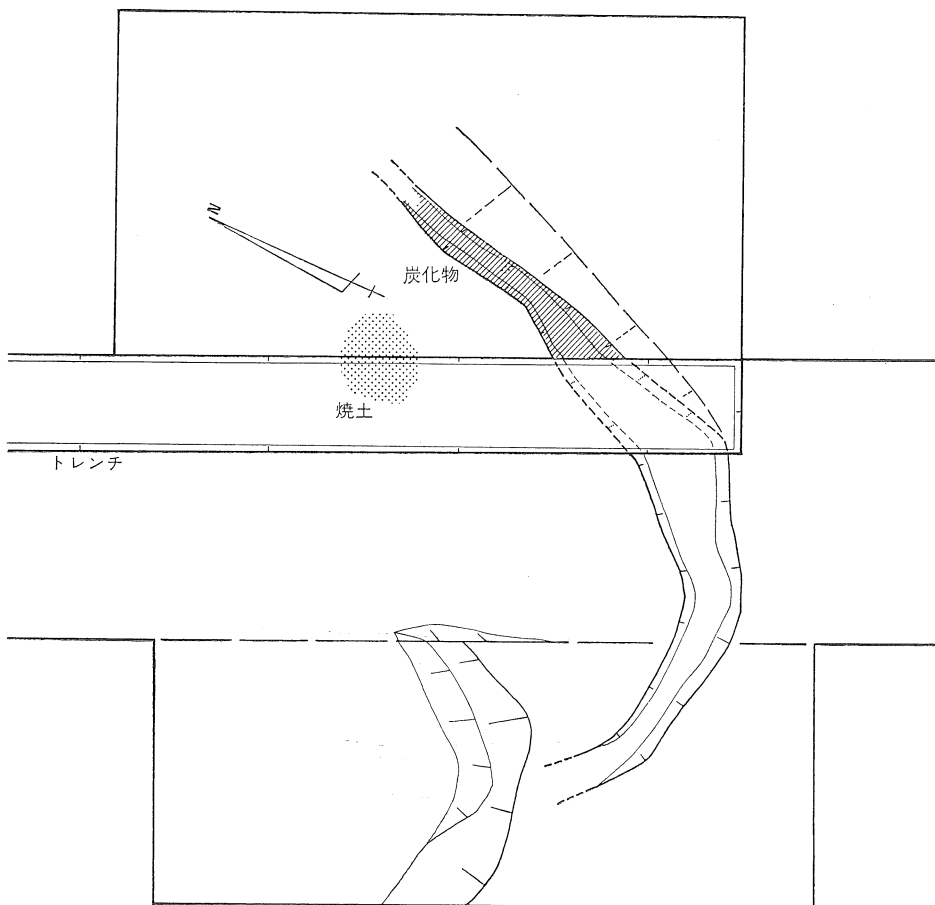


fig 9 C地区住居址実測図 〈1:40〉

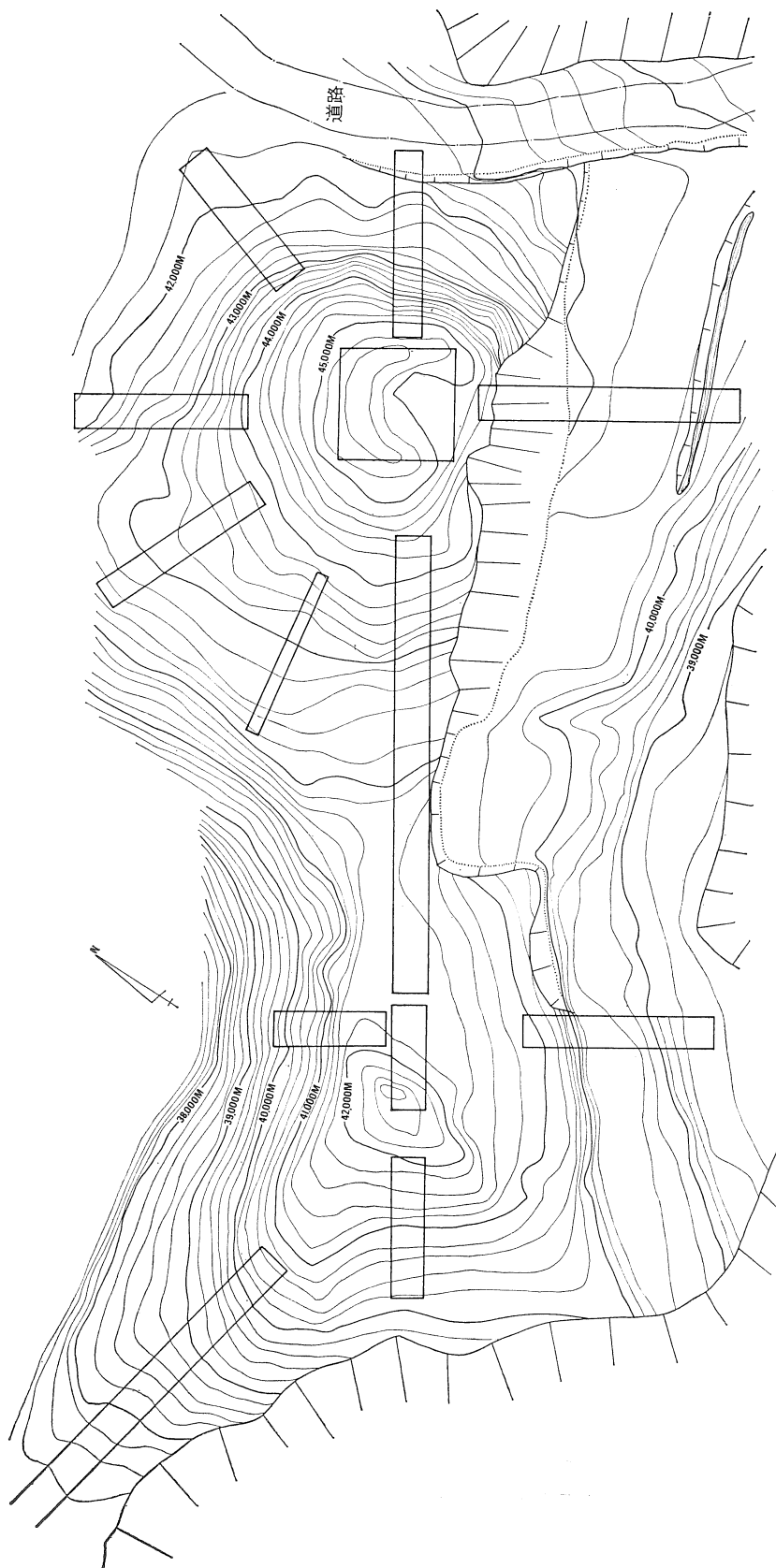


fig 10 D地区地形測量図（機ヶ谷3号墳）〈1：300〉

D地区 (fig 10 PL15~17)

本地区は、『静岡県遺跡地図』（静岡県文化財保存協会1979）による機ケ谷3号墳（前方後円墳）が登録されている。

機ケ谷3号墳は、北から南へのびる尾根上の若干平坦地として広がった地点に立地しており、ほかに尾根上には機ケ谷1号墳、2号墳が確認されている。なお墳丘と思われる部分の南側は植林事業のため、また西側は土取工事のため一部削り取られている。

調査トレンチは、後円部と思われる部分に放射状に6本、墳頂上に5m×5mのグリットを、前方部と思われる部分にも6本のトレンチを設定し調査した。各トレンチとも表土を掘り下げたところ、すぐ地山面に達し、周溝・削り出し部に見られる一般的な土層堆積は発見されていない。

主体部と思われる所に設定した墳頂部グリットもかなりの攪乱を受けており古墳として確認しうる資料は得られなかった。本グリットの出土遺物は、銅銭（寛永通宝）と比較的新しい時期と思われる多数の瓦が発見されている。

附近の住民の話や、出土遺物から江戸時代よりごく最近まで祠が祭られていた跡と推定できる。

本地区の調査では、機ケ谷3号墳の全容を確認することはできなかった。これは、各所とも植林や土取りによる激しい攪乱のためと、祠など施設の建築にかかわる加工がされているためであると思われる。地形コ

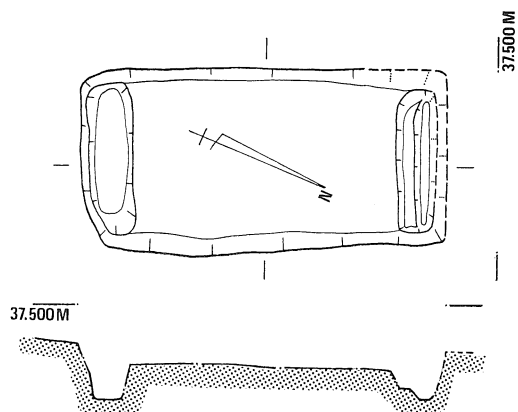


fig 11 E地区土墳墓実測図 <1:40>

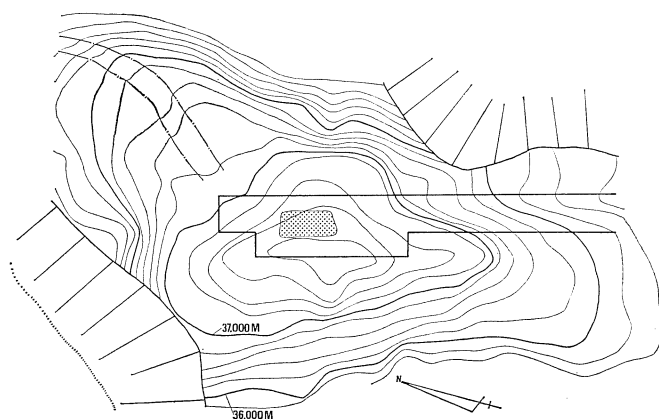


fig 12 E地区地形測量図 <1:300>

ンタ図から検討すると前方後円墳と考えるよりむしろ円墳としての可能性も考えられ、本地域の古墳築造の特性を考えつつ、今後の資料増加をまって結論づけたい。(松井一明)

E地区 (fig11~12 PL18~19)

E地区は、D地区からF地区へ西にのびる尾根のほぼ中間の平坦部分に位置し、北側は工場用地のため削り取られている。

トレンチは、ほぼ南北方向に設定し、調査を行った。その結果トレンチ北側から長さ約2m幅1m、深さ0.3mの長方形プランの土壌が発見された。この土壌には、両方の短側壁(小口)下に深さ20cm程の掘り込みがみられる。この掘り込みは、おそらく小口板を立てた痕跡と思われる、組合せ式木棺を収納した土壌ではないかと考えられる。他の遺跡に類例を求めると、千

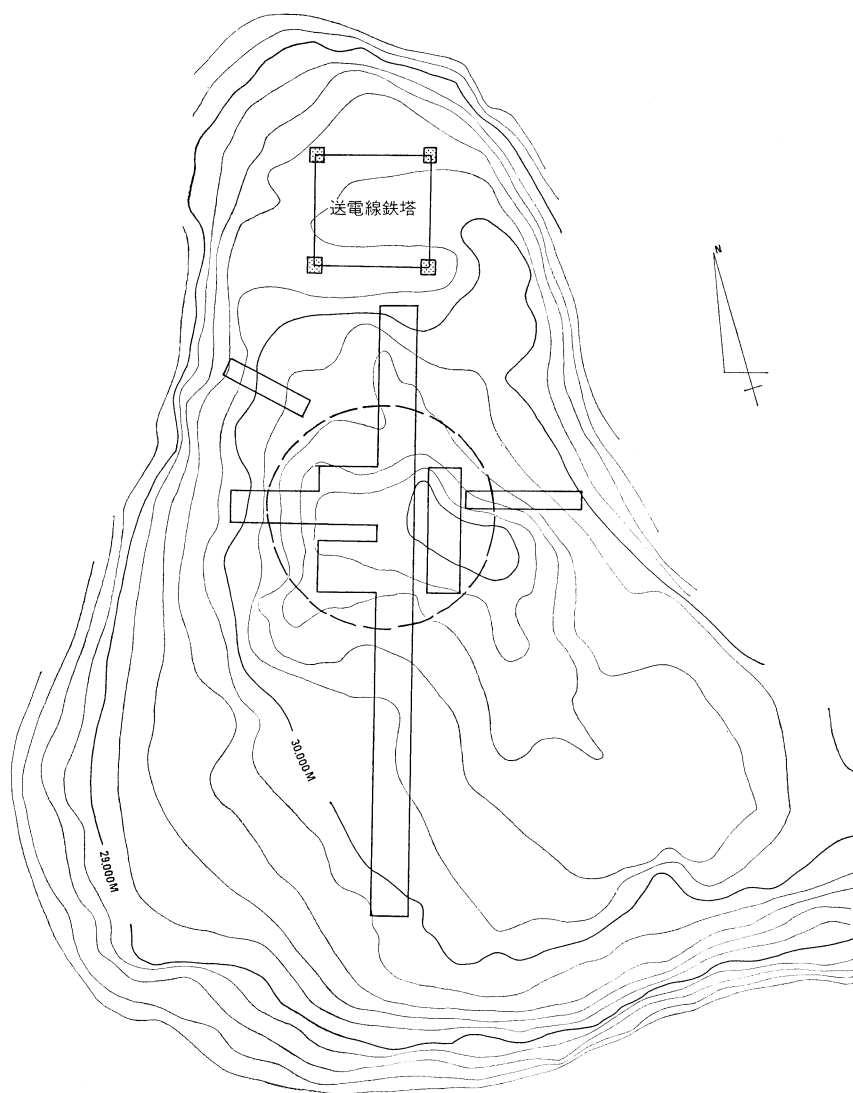


fig 13 E地区地形測量図(鶴松1号墳) <1:300>

葉、飯合作遺跡（『佐倉市飯合作遺跡』千葉県文化財センター 1978）のD-08方形周溝墓の周溝内に発見された土壌に見ることができる。この類例では、短側壁の掘り込みの他に、長側壁下に棺側板を支えるために2個ずつの小孔が穿たれているが、今回調査した土壌ではこのような小孔は検出されていない。

なお、本地区では方形台状墓や方形周溝墓にみられるような周溝や、削り出し等も検出できなかった。（高野由美子）

F地区（fig 13 PL20）

F地区は、『静岡県遺跡地名表』で鶴松1号墳が登録されている。

墳丘状の若干の高まりのある部分を中心として、トレンチを設定し調査した。その結果、表土直下で地山面を確認し、主体部、周溝等古墳を立証する遺構は検出されなかった。

F地区では直径2m前後のゴミ穴状の攪乱が多数発掘された。これらは、地元の人の話によると最近まで牛馬を埋葬したとのことであった。

以上の結果から、鶴松1号墳は破壊が著しく現状では古墳を確認することはできなかった。（高野由美子）

Ⅱ まとめにかえて

各地区の概要から周知の文化財についての状況をまとめてみると次のとおりである。

機ヶ谷3号墳（前方後円墳）……祠や植林でかなり破壊され現状では遺構・附属施設等の存在は不明である。

鶴松1号墳（円墳）……送電線の鉄塔建設や、附近の農家で飼っていた牛馬の墓地となっていたため墳丘のかかなりの部分を失っている。

鶴松2号墳（円墳）……墳頂部は祠を祭るため約30cmの深さで削ってある。墳丘も土取りで本来の姿はとどめていない。

鶴松3号墳（円墳）……外形は古墳のように見えるが、主体部、周溝も確認できなかった。

C地区の、鶴松4号墳、土壌墓、住居址の3遺構については出土遺物が皆無であることと、形態的に類例も少なくその位置づけについて資料の増加を待って再度試みたい。またE地区の土壌墓(?)についても、鶴松＝飯合作ではなくあくまでも参考例の紹介にとどめておきたい。

調査員の浅学のため誤った記述が多くあると思う。先輩各位のご指導、ご指摘をお受けし、学を深めたいと思う。



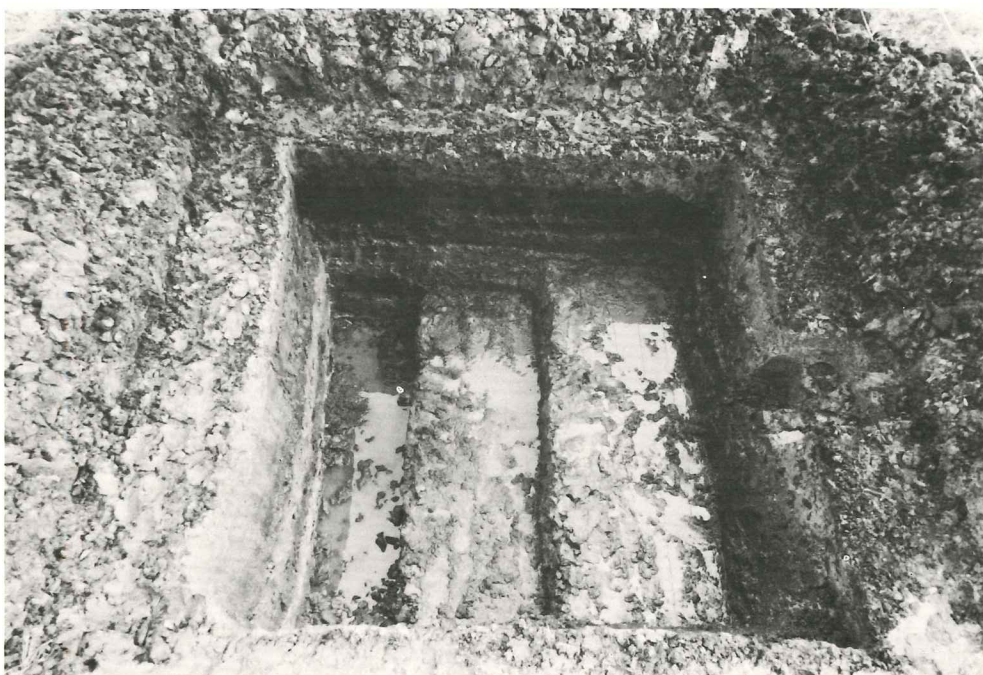
PL 1 調査区近景 〈西より〉

奥に広がる丘陵が古墳群の分布する地区になっている。



PL 2 水田地区の調査

遠くに磐田原の台地を望む。山の向う側に鶴松遺跡が見える。



PL 3 水田地区 トレンチ完掘状況

湿地で湧水がはげしい。土師器片、陶器片が出土している。



PL 4 水田地区 トレンチ土層断面

深さ約2 mまで調査する。厚くPEAT層が堆積している。



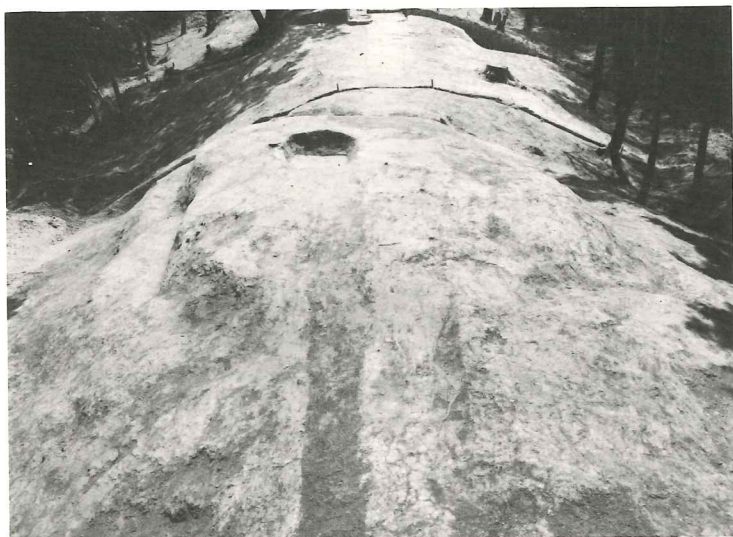
PL 5 A地区 鶴松 2 号墳墳頂部

祠を祭るためにすでに約30cm地山面まで削り取られている。



PL 6 A地区 鶴松 2 号墳全景

墳丘各部に攪乱が入りやや形が変わっている。

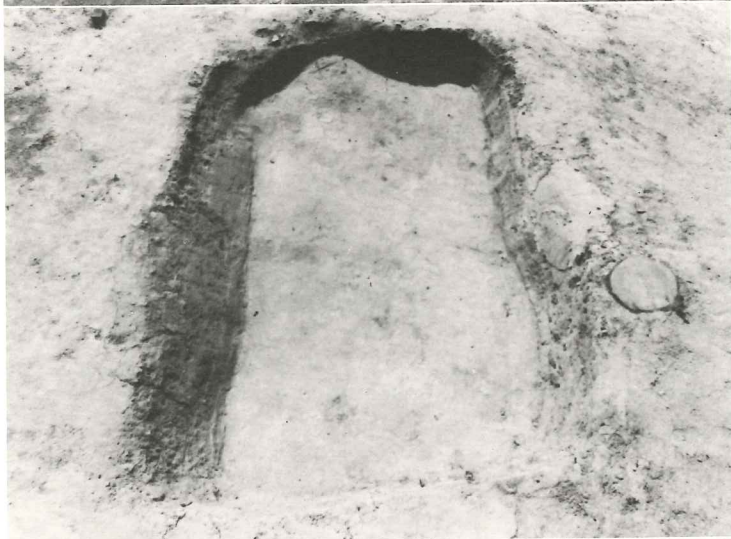


PL9

C地区鶴松4号墳

(正面より)

陵を切断し山裾を削って形をととのえている。主体部は中軸よりややずれている。

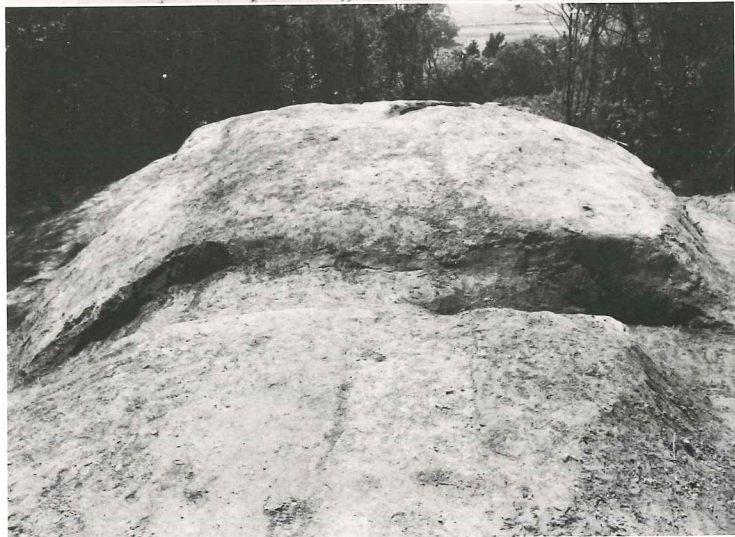


PL10

鶴松4号墳主体部

遺物はなにも検出されていない。

覆土は黒褐色土で短期間に埋没したと考えられる。



PL11

鶴松4号墳

(裏より)

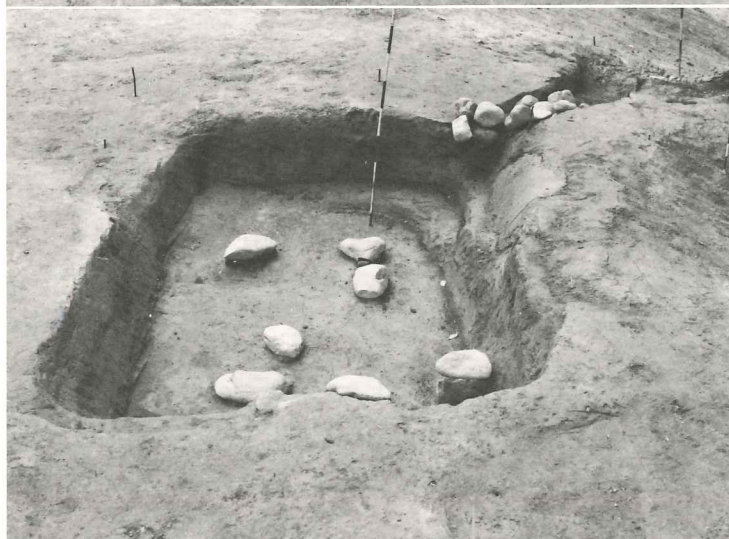
砂質の土のため土砂の流出が激しい。切断部には有機質土がレンズ状に推積していた。



PL12

C地区土坑墓

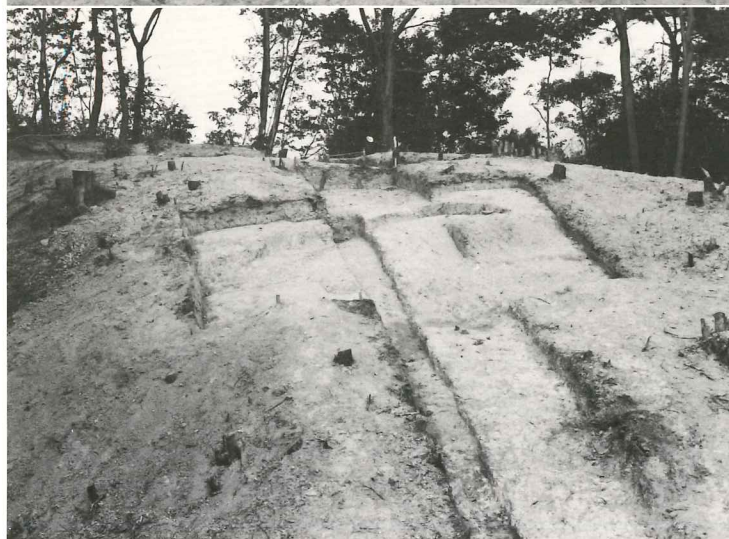
床面に握り拳大の石を配置してある。土坑隅より礫のつまった配水溝を附属する。



PL13

土坑墓

この土坑を墓域として区画する溝等の施設は発見できなかった。



PL14

住居址

丘陵最上部に位置する焼土址、上部に炭化物のつまった溝をもつ。



PL15

D地区トレンチ

機ヶ谷3号墳の中軸
をとる。



PL16

D地区トレンチ

機ヶ谷3号墳前方部
トレンチ。



PL17

D地区

機ヶ谷3号墳西側の
丘陵上トレンチ。



PL18

E地区土壇墓

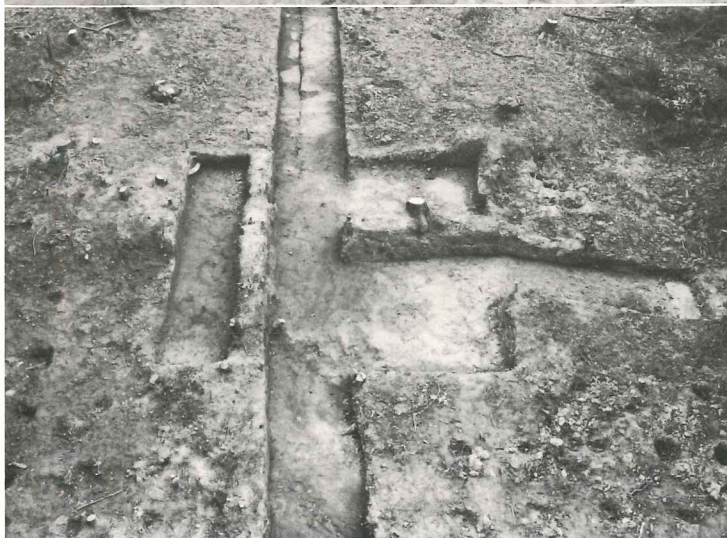
土壇短辺に深さ30cm
の堀り込みをもつ。



PL19

E地区土壇墓

土壇の一部を攪乱で
失っている。



PL20

F地区
鶴松Ⅰ号墳

附近で死んだ牛馬の
捨て場となっている。
攪乱のため墳丘はほ
とんど残っていない。

鶴松古墳群・機ヶ谷古墳群

ヤマハ発動機株式会社 袋井工場
建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

1982年3月31日

編集 袋井市教育委員会
印刷 株式会社 開明堂